

基本的診療業務 2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解

到達目標	研修内容	指導体制	必要症例数	症例数の数え方	終了判定基準および評価方法
------	------	------	-------	---------	---------------

(1) 歯科専門職の連携

【行動目標】

<p>① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。</p>	<p>・外来・入院患者診療における、歯科衛生士・歯科技工士との症例検討、治療に関する連携や指示</p>	<p>研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下に医療行為を行う。指導歯科医または上級歯科医は、研修内容に関するフィードバックを行う。症例検討会に参加し内容を指導歯科医や上級歯科医と検討する。</p>	<p>20例</p>	<p>指導歯科医・上級歯科医の監督・指導の下、研修医が単独または指導下に実施した場合に1症例とする。</p>	<p>歯科医師臨床研修システム（DEBUT）または研修医手帳に経験した症例を登録し、指導歯科医が評価を行う。20症例以上が必要。</p>
<p>② 歯科技工士の役割を理解し、適切な歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。</p>	<p>・多職種チーム医療に関する研修受講、情報収集、学会参加等による知識の習得</p>	<p>研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下に医療行為を行う。指導歯科医または上級歯科医は、研修内容に関するフィードバックを行う。症例検討会に参加し内容を指導歯科医や上級歯科医と検討する。</p>	<p>20例</p>	<p>指導歯科医・上級歯科医の監督・指導の下、研修医が単独または指導下に実施した場合に1症例とする。</p>	<p>③に関する評価は、(2)多職種連携、地域医療－④と併せて実施する。</p>
<p>③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。</p>	<p>・多職種チーム医療に関する研修受講、情報収集、学会参加等による知識の習得</p>	<p>研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下に医療行為を行う。指導歯科医または上級歯科医は、研修内容に関するフィードバックを行う。症例検討会に参加し内容を指導歯科医や上級歯科医と検討する。</p>	<p>20例</p>	<p>指導歯科医・上級歯科医の監督・指導の下、研修医が単独または指導下に実施した場合に1症例とする。</p>	<p>③に関する評価は、(2)多職種連携、地域医療－④と併せて実施する。</p>

基本的診療業務 2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解

到達目標	研修内容	指導体制	必要症例数	症例数の数え方	終了判定基準および評価方法
------	------	------	-------	---------	---------------

(2) 多職種連携、地域医療

【行動目標】

<p>① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア関連セミナー、講習会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講習会等に参加し知識を得る。</li> </ul>			
<p>② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア（地域医療連携）に関するレポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成に際して、指導歯科医は文献の紹介など適切な助言、指導を行う。</li> </ul>	<p>1症例</p>	<p>講習会への参加1回、または適切な内容のレポートの提出をもって1症例とする。</p>	<p>講習会等に参加した場合は、研修医手帳に受講した内容を記録する。 講習会等への1回以上の参加または地域包括ケアシステムに関する適切な内容のレポート1本以上の提出が必要。</p>
<p>③ がん患者等の周術期口腔機能管理において、その目的や各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周術期口腔機能管理の意義、内容に関する研修会、セミナー、学会等への参加</li> <li>・当院入院・手術症例に対する周術期口腔機能管理の実践</li> </ul>	<p>研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指示・指導の下に医療行為を行う。指導歯科医・上級歯科医の診療介助を行い指導を受ける。診療後にフィードバックを行う。 歯科衛生士、歯科技工士等多職種からの助言、指導を受ける。</p>	<p>5 症例</p>	<p>指導歯科医・上級歯科医の指導の下、研修医が診療行為の全部または一部を行った場合、または指導医の介助の介助を行い、適切な内容の症例報告書の提出をもって1症例とする。</p>	<p>歯科医師臨床研修システム（DEBUT）または研修医手帳に経験した症例を登録し、指導歯科医が評価を行う。適切な内容の症例報告書5症例以上の提出が必要。</p>

④ 歯科専門職が関与する多職種チームについて、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	(1)－③の研修内容をふまえて、院内多職種チーム（NST、呼吸サポートチーム等）への参加	指導歯科医・上級歯科医とともに院内多職種チームのラウンドに参加し、知識を得る。レポート作成に際して、指導歯科医は文献の紹介など適切な助言、指導を行う。	多職種院内ラウンド参加3回以上		研修医手帳に参加記録を登録し、指導医が評価を行う。3症例以上の経験が必要。
---	--	---	-----------------	--	---------------------------------------

(3) 地域保健

【行動目標】

①地域の保健・福祉関係機関、関係職種を理解し、説明する。	・地域歯科保健活動関連セミナー、研修会等への参加	各種研修会に参加し知識を得る。レポート作成に際して、指導歯科医は文献の紹介など適切な助言、指導を行う。	1 症例	地域歯科保健活動に関する適切な内容のレポート提出をもって1症例とする。	地域歯科保健活動に関する適切な内容のレポート1本提出が必要。
②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	・地域歯科保健活動および地域医療構想に関するレポート作成				

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

【行動目標】

① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規および関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	・医療保険制度、介護保険制度関連セミナー、研修会等への参加	各種研修会に参加し知識を得る。レポート作成に際して、指導歯科医は文献の紹介など適切な助言、指導を行う。	各 1 症例	歯科関連法規、医療保険制度、介護保険制度に関する適切な内容のレポート提出をもって1症例とする	歯科関連法規、医療保険制度、介護保険制度に関する適切な内容のレポート各1本提出が必要。
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	・歯科健康保険集団指導受講				
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	・医療法、歯科医師法、医療保険制度、介護保険制度に関するレポート作成				